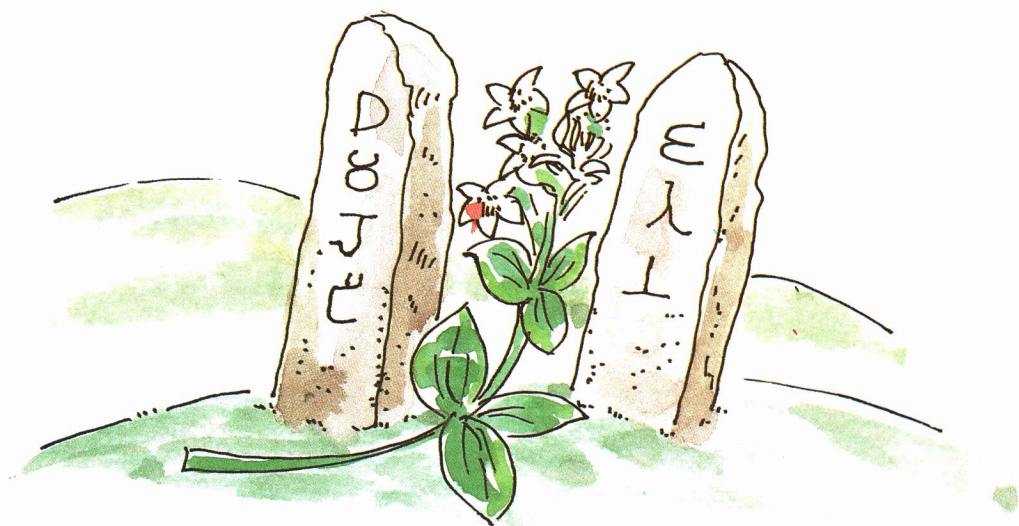


(2) 三つ葉うつぎの財宝^{ざいほう}

福永^{ふくなが}と関山^{せきやま}の中ほどに横川口^{よこかわぐち}というところがあって鑄^い物師^{ものし}が住んでいました。その人がなくなる時、「うるし千^{しゅせん}・朱千の宝を三つの石仏を結ぶ三角形の三つの葉うつぎ（ふつうは二つ葉）の下にうめた。」と言ひ残したそうです。

いまでも、その宝は、見つかっていないといわれています。



(3) 石の枕^{まくら}

小松^{こまつ}と上荒井^{かみあらい}の間が荒地^{あれち}で人通りも少なかったころ、二人の悪い老婆^{ろうば}が旅人^とを泊め、石枕^{いしまくら}をさせた上、石づち^{いしづち}をもっておそい、金品^{かねひん}をはぎとっていました。

そのうち一人の草刈童子^{くさかりどうじ}があらわれ、旅人が来ると、「日がくれても荒井・小松に^{やど}宿とるな。」とうたうように